

ご 挨拶

和歌山地域経済研究機構

理事長 小 田 章

和歌山地域経済研究機構が実質的活動を開始してから、はや1年が経過しました。平成9年度事業として、当初2つの自主研究と2つの受託研究を予定しておりましたが、都合で受託研究の一つが取り消しとなり、計3つのテーマで研究を行ってまいりました。その概要につきましては本誌に掲載してある通りです。できるだけ早い時期にそれらを報告書として纏める予定であります。

さて、政府は今年に入り、減税を始め景気回復を目的とした種々のテコ入れ策を打っておりますが、一向にその効果が現れる気配がありません。和歌山地域においても種々の施策が講じられてきたようですが、景気回復の兆しは一向に看取することができません。県経済の統計数値がそれを裏付ける格好になっております。過日発表された平成10年度の県予算案も、景気低迷を反映して歳入不足による歳出抑制の中で県経済をいかに活性化させるかに腐心したものになっていますが、その活性化は楽観視できるものではありません。

また、今年度から第5次和歌山県長期総合計画が実施の運びになりますが、その計画を見る限り夢のあるバラ色の姿が描かれております。もちろん、未来に夢のある、豊かで住みよいコミュニティを創造することは重要なことです。しかし、その計画をいかに遂行し、いかにして実現していくかが今後の課題であり、そのためにじっくりと将来を見極め、最良の策を勘案すること、つまり大局的な立場で和歌山地域のあるべき姿を模索・究明することが不可欠であります。そして、こうした課題の解決・遂行こそが本研究機構に与えられた究極の目的であると認識しております。

来年度も、本機構では3つのプロジェクトを予定しております。これらの研究を通じて微力ながら和歌山地域経済の活性化に寄与できますよう一意専心する所存です。とともに、本機構の活動に対し、機構関係者は言うまでもなく、機構外の方々から多くの助言、要望、批判等を頂戴し、機構の一層の充実を図ってまいりたいと思っております。最後に、本機構の今後の活動と成果に注目していただきたいと思います。